

# 食害防止チューブ(単木保護資材)3つの条件

## Ⅱ. 『5年以上の耐久性を有する事』

獣害は、植栽後から成林するまで継続して発生します。特に植栽後からディアラインを越えるまでの被害は深刻です。したがって地域差はありますが、ディアラインを越える1.8m以上に生長する



までは防護を確実にしなければなりません。下刈り施業が終了する5年目程度で植栽木はネットを越えるため、食害防止チューブは5年以上効果を維持する必要があります。そのため、素材の耐候性データや、強風・降雪等の耐久性等を施工実績の写真等で5年以上の耐候性及び耐久性を裏付ける必要があります。

←施工直後



←植栽5年後

**幼齡木ネット&チューブラーは5年以上の施工実績が全国各地で実証されニホンジカ等の害獣を越える高さまで生育し食害から守り続けている資材です。**

**\* 幼齡木ネットは生分解繊維で作られております。およそ8年かけて分解します。また、チューブラーは10年以上の耐久性を持った繊維で作られております。【耐候性データ有】**